

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	and にこり 日進		公表日 2024年3月12日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・十分なスペースを確保している。 ・十分なスペースを確保している1階と2階に活動スペースを設けており、利用者人数に応じ対応している。 ・コンセントなどが必要な児や酸素の使用をしている児がいるのでできるだけチューブが絡まらないように留意したり、医療機器が他児童によって触れることがないように注意している。 ・ベビーベッドを使用し、医療器具が利用児に触れないよう配置している。また、バギーに座って過ごす時間を設け、フロアに利用児が集中しないよう配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用人数が多い日は、医療物品であふれたり、移動が可能な利用者が他利用者と適切な距離が保てないこともあるため、活動室の構造化をすすめていきたい。 ・医療用具が利用者の手が届く位置に配置することになってしまったり、酸素チューブがフロアで過ぎしている利用児に引っかかってしまうことがあり、注意が必要である。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	3	<ul style="list-style-type: none"> ・必要人員を配置している。 ・基本人員を配置している1人对1人で対応出来ない時は、保育園式で主になる人とサポートする人および医療ケアをする人で対応していた。 ・休憩などの時間を分けてとるなどして可能限りフロア内に職員が確保できるようにしている。 ・安全を確保して支援することが難しいと考えられる日は、調整が可能か相談している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケア時間が被ることが多く医療ミスが生じる懸念もある。 ・独歩できる児と臥床時間が長い児が混在しているため危ない。 ・医療的ケア児と職員の配置数のバランスによっては、注入および吸引、体調の変化や対応が迅速かつ適切に行うことが出来ないリスクが高いため、職種含めた調整が必要である。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1	<ul style="list-style-type: none"> ・パーテーション等で仕切りを設けているトイレ、玩具、外活動の玩具(ベビーカー等)仕切りで置く場所が分かれている。 ・仕切りで区切られている。 ・基本的にフロア内にいる児の様子が常に見られるような構造になっている。 ・パーテーションを使用して構造化している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キッチン部分に自由に行き来できるため移動が可能な利用者がキッチン物品を持ち出せたり触れてしまうため清潔ではない。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	2	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除は毎日しているがアートの絵の具が取れず、清潔にみえない。 ・様々な種類のバギーやベビーベッド、布団、クッションなど利用者の状態に合わせて対応できる寝具等が整っている毎日の清掃、消毒、細めな換気を行い、清潔を心掛けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通気性が悪く匂いがこもりやすい。 ・床の材質的に汚染物がしみこみやすく感染対策としても望ましくない。 ・エアコンの構造的に業者による清掃の必要性があるが出来ていない。 ・呼吸器系が弱い利用者が多いため望ましくない。調理器具や食器などが置いてある場所や、オムツ交換場所など利用者が自由に行き来できる配置となっているため、改善が必要である。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・障害特性に応じて、個別支援が行える部屋を担保している。 ・必要に応じて個別支援を行える部屋がある1階と2階に活動スペースを設けており、必要に応じ使い分けられる。 ・不穏状態が強い児などは二階の個室にて支援をしている。1階がメインの活動室になっているが、状況に応じては2階の静養室も使用して良いとこになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害特性に応じて、活動場所を分けている。

業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	1	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所計画で目標設定と振り返りを行っている。 ・定期的に多職種会議などを通して話し合う機会がある。 ・他職種会議が毎月設けられており、業務改善が必要なことを話あう機会がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現場をまわす職員が必要なため、会議時の資料を後ほど書面に確認するが書面だけでは理解しづらい内容もある。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜実施している。 ・保護者の評価表および意向を職員会議および多職種会議で内容を共有し業務改善につなげている。 ・定期的に配布している。 ・保護者等に対して事業所の評価を実施し、保護者等の意向を事業所内で把握、業務改善に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画研修時に必ず把握している。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議、多職種ミーティングを毎月開催し、誰もが自由に意見等を提案できる機会を設けている。 ・月に一度職員会議を設け、職員の意見等を把握する機会を設けている多職種会議を月に1回設けて、内容の業務改善に繋げている。 ・業務の改善点がある場合は各事業所で実施しているミーティングおよび月0回正規職員が参集する職員会議で議題としてあげることとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上司と話す機会が十分に得られない。 ・アポイントを取っても忙しゆえに相談できないことも多い。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者評価を実施している。 	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・法人全体研修の必須化、外部研修は参加を推奨している(補助金制度あり)。 ・月に一回の職員研修、年に一回全職員を対象とした社内研修を行っている毎月、職員会議および勉強会で職員の資質の向上を図るため研修が行われている。 ・定期的に勉強会などの機会があるため知識を学べる良い機会とすることができている。 ・年に1度パートアルバイトを含む全職員を集め、外部講師を招き社内研修を1日かけて行っている。 ・また、月に1度正規職員が集まり、研修計画に基づいて研修を受けている。 	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・作成し、法人HPに公開している。 	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・適切に行っている。 ・半年ごとの面談および日々の支援等からアセスメントを行い、児童発達支援計画書を作成している送迎時の保護者およびきょうだい児とのコミュニケーションを大事にしている。 ・多職種で情報共有を行い、計画に還元するようになっている。 ・児童発達支援計画書の作成プロセスに基づき、保護者および本人との個別面談時にニーズおよび課題を一緒に確認し、計画書へ反映している。 	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種で計画書の内容を検討しているPT、OT、保育士の視点から助言を頂くようにしている。 ・多職種で情報共有を行い、計画に還元するようになっている。 	

適切な支援の提供

14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	1	<ul style="list-style-type: none"> ・適切に行っている。 ・多職種会議で内容の共有を行っている多職種会議で支援計画書の内容を共有している。 ・ミーティングで内容を確認し、支援に反映するようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報共有システムが確立されていないため口頭で聞くことが多く、非正規職員は変更内容を知る機会が遅れがちである。
15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・遠城寺式乳幼児分析的発達検査を行っている。 ・日誌を通してその日その日の児への支援とその反応を踏まえた内容を書くようにしている。 ・モニタリング作成の際、支援に入っている職員から聞き取りを行っている(観察法)。 	
16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・適切に作成している。 ・1日1つ以上は計画したことを取り組むようにしている。 ・その日の担当でない時は担当者に依頼して支援している。 ・定期的に評価を行い、支援内容の変更を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報共有システムが確立されていないため口頭で聞くことが多く、非正規職員は変更内容を知る機会が遅れがちである。
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	2	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種会議にて行っている。 ・児童発達支援管理責任者を主軸にチームで行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に行えているが、もっと工夫の余地はあると思う。
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種で意見を出し合い、活動内容を決定している季節に合った活動を意識している。 ・保育士、看護師、PT,OTそれぞれが意見を出し支援内容を考えている。 ・固定化しないように必要時には多職種の視点や意見を取り込むようにしている。 	
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・適切に行っている。 ・集団活動の状況をみて落ち着きがない時には個別活動に変更し対応している。 ・多職種で情報共有を行い、計画に還元するようにしている。 	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	2	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の会の時間に今日の活動内容を共有し役割分担をしている。 ・支援について体調の変化や注意事項を共有することは出来ている。支援開始前に必ず打ち合わせをすることは行っていないが、ホワイトボードにてその日の流れおよび担当の移り変わり、来所時間、帰所時間等を記載しており、前日に確認することで支援内容の共有を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日情報共有をスタッフ全員で共有する機会はないため、情報伝達が遅くなり支援内容を共有できていないときもある。必要最低限の情報共有をしているが、支援についてもう少し打ち合わせを行うことができると良いと思う。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	4	<ul style="list-style-type: none"> ・帰りの送迎時に支援を振り返り、翌朝の朝の会で共有している。 ・支援終了後に必ず全員で打ち合わせをすることは行っていないが、入職して3ヶ月までの職員に対しては、振り返りを毎日主任および副主任と行い、その日の疑問点はその日の内に解消するよう努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・帰宅時間がバラバラなため毎回必ず打ち合わせは行っていない。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・適切に行っている。 ・連絡帳や日誌に支援内容とその反応などをかくよう意識している。 	
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・各種法令に基づき、適切に実施している。 ・3ヶ月～6ヶ月に1度モニタリングを行い、計画書見直しを実施している。 	
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者クラスが参加している。 ・管理者以上の者が参加を行っている 	

関係機関や保護者との連携	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	2	・月に一回嘱託医の訪問診療を行い連携を行っている。 ・訪問医が月1回来所したり、大学のボランティアと連携する機会などがある。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2	5	・卒所後にむけてご家族の希望や方向性を聴取し必要時には情報提供等を行っている。 ・必要に応じて行っている。	・実施を試みたが、重度障害ということもあり、園側から断れている。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	2	・必要に応じて行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)	0	0		
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	0	0		
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	0	0		
	31	(31は、事業所のみ回答)	6	1	・必要に応じて行っている。	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	3	・親子サロンこっこを開き、地域との交流を深めた。 ・こっこなどを通して地域の子どもたちを開く機会を設けている。 ・地域の支援センターに出かけたり、親子サロンを開催して交流を図ることを取り組んでいた。 ・月に1度親子サロンを開催しており、障害の有無関係なく地域の親子が来所できる環境を設定している。	・実施を試みたが、重度障害ということもあり、園側から断れている。 ・親子サロンでは、参加者がなかなか集まらず継続が難しいと感じた。
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	・適切に行っている。 ・送迎時およびInstagram等のSNSを通じて子どもたちの様子を共有している行っている。 ・送迎時など直接話ができる機会があるのでその際に話すよう心掛けている。 ・主に送迎時に現在の様子を共有し、共通理解をもっている。		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	0	・各案内を定期的に提供している。 ・適宜情報提供を行っている	・日々の育児相談および困りごとには応えているが、ペアレントトレーニングとしては取り組んでいない。 ・今後取り組んでいきたい。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	・適切に行っている。契約の際に説明しており、また随時の質問も受け付けている。		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0	・適切に行っている。6ヶ月に1度個別面談を設定しており、家族と本人の意向を踏まえて計画書を作成している。		
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7	0	・適切に行っている。		
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	・必要に応じて行っている。		

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	0	・保護者会、講演会、各種イベントを企画している。 ・保護者同士が交流を行える機会を提供している保護者会後に交流会を開催したり、保護者交流のイベントを企画し実施している。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	・迅速に対処している。 ・対応している行っている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7	0	・適切に行っている。 ・インスタグラム、月一度のおたよりを通じて発信しているにこり便りで情報を発信している。 ・月に1度おたよりを作成している。毎月おたよりを発行している。 ・instagramを活用して、活動の様子を配信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	・適切に管理している。 ・外部に持ち出すことがないように気をつけている。 ・写真等も共有システムに取込次第、自身の媒体から削除している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	・必要時は言葉かけ以外に多方面からのアプローチを行っている。	
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	0	・こっこなどを通して地域の子どもたちを開く機会を設けている。		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	1	・各種法令に基づき、適切に作成している。 ・月に2回防災訓練を行っている。 ・年間の防災訓練スケジュールに盛り込み、毎月2回は実施するようにしている。	・各種マニュアルは定期的に見直しを行っていく必要がある。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	・各種法令に基づき、適切に作成している。 ・月に2回防災訓練を行っている。 ・防災訓練に盛り込み、行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0	・主治医と連携をとっている。 ・主治医との連携を行い把握している毎月お薬手帳の提出をしていただき内服の内容を確認し、変更などがなにか確認している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	1	・適切に対応している。	・食物アレルギーの有無は確認している。しかし、抗アレルギー薬が医師指示書には反映していない。改善課題である。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0	・各種法令に基づき、適切に作成している。 ・防災訓練に併せて取り組んでいる。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	1	・HPにて周知している。	・より良い周知方法を考えていく。
51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	・検討を行っているヒヤリハットがあった際には各事業所責任者が参集する会議にて共有し、改善に努めている。		

52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・法人全体研修の必須化、外部研修は参加を推奨している(補助金制度あり)。 ・適切に行っている。虐待の研修を会議で行っている。 ・定期的に勉強会にて虐待に関する知識を再確認する機会がある。 ・年に1度パートアルバイトを含む職員全体を参集し、研修を行っている。その中の項目として虐待防止のための研修を毎年必ず行っている。 ・地域の虐待防止研修にも参加するよう周知している。 	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・適切に対応している。 ・児童発達支援計画書に記載し保護者に承知サインを頂いている。 ・身体拘束についてのマニュアルが策定されており、そのマニュアルに基づいて児童発達支援計画書に「やむを得ない場面で起こりうる身体拘束」について記載があり、保護者の方にも説明を行っている。 	